

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270400821		
法人名	有限会社 ケアライフ武上		
事業所名	グループホーム ノーマライ心の花御成		
所在地	千葉県千葉市若葉区下田町 1263-56		
自己評価作成日	平成22年10月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ユニトレンド 株式会社		
所在地	千葉県柏市若葉町 3-3		
訪問調査日	平成22年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

障害(認知症)が有っても、職員が常に側にいてサポートする事により、人として普通に生活していけると考え、実践しています(ノーマライゼーション:ホーム名の由来です)。そして、その方々の世界にそっと寄り添い、穏やかな日々を送って頂いています。また、望めば看取りを実施しており、開設6年半になりますが、これ迄4名の方を見送っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の「明るく楽しく笑顔でともに暮らす」はホームに浸透し、その実践の成果が際立っている。管理者の笑顔が職員の笑顔に繋がり、入居者の笑顔に繋がって、入居者と職員が一緒に心の花を咲かそうという代表者の思いが実践されている。代表者は入居者にとって大切なことを「三度の食事に力を注ぐこと、地域とのコミュニケーションを確立すること」と認識し、全員で努力を重ねることで、入居者の健康と安全、安定を確保している見事なホームである。住宅街の一角にあるホームは玄関周りに季節の花のを置き、清掃の行き届いた周辺や居住空間、広い庭とベランダなど環境的にも恵まれたグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るく楽しく笑顔でともに暮らす」を、理念に掲げ、管理者と職員がその理念を共有し、毎月のカンファレンスなどでの話し合いを通じて、日々のケアに取り組んでいる	施設名にあるようにノーマライゼーションと「明るく楽しく笑顔でともに暮らす」理念は働く職員全員の日々のケアに活かされ実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、自治会に加入し、地域の行事に参加しているだけでなく、地域の方々を招いて、納涼会を実施し、地域の住民の方との交流を図っている。	玄関周りのプランターには季節の花を咲かせ、ホーム周辺の清掃は行き届き、ホーム入り口の掲示板で積極的な地域参加と地域の方々との前向きな交流の思いを伝え、地域住民との交流を日常的に実践している。こうした努力が地域住民との良い関係を築いている。	ホームの行事には地域の方々や子供たちに声を掛けて参加して頂くなど、地域との交流を続けるホームの努力が確実に入居者の喜びとなっている。こうした努力の継続を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム前の掲示板にて、地域の方々の相談を受け付けている。また、地区社協の役員として活動し、日々のケアを通じて得た認知症の人の理解や支援の方法を地域の方々にに向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出された地域住民や民生委員、ご家族などの意見を、日常のケアやサービスの向上に活かしている。	二ヶ月に一回の運営推進会議を重ねた努力が、お互いに率直な意見交換できる関係を築き、日常のケアやサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表者が入居者の立場にたった意見を、市町村に伝えている。	運営推進会議の一員としての参加もあり、日頃から連絡を密にして協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関等は施錠せず、様々な行動障害の見られる入居者の方に対しても、一切の身体拘束を行わないケアを、代表者および全ての職員が行っている。	代表者および全ての職員は、さまざまな行動障害の見られる入居者に対しても、入居後のケアと見守りの積み重ねにより安定を保つことで、一切の身体拘束を行わないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者等が研修に参加し、虐待防止関連法について学び、それを職員に勉強会等を通じて、周知していく事で、事業所での虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表者及び管理者が十分に理解し、活用できるように支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、または必要に応じて、利用者やご家族が理解するまで、十分に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に、利用者の意見をきちんと聞き、担当者も配置している。	代表者および職員は、日々入居者・家族と何でも言い合える関係を築くことを心掛け、その努力の結果、家族の訪問は多く、都度気軽に話し合っている。また、運営推進会議での家族会の意見等を運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス以外でも、個々に話をする機会を設け、意見や提案を聞くようにしている。又、提案・改善・成果報告書があり、気軽に提案できるようにしている。	カンファレンスは、月一回出来るだけ多くの職員が出席可能な時間帯に、全職員が意見や提案を言いやすい環境の下で開催している。また、職員が「日々のケアに於いての気づきや提案を書き込んでおく仕組み」が有り、それらを反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個々の努力などを把握し、評価する事で、向上心を持って働けるような環境を作っている。「アクティビティを強化する」ことを今年の目標とし、通常より人員を増やしてアクティビティに取り組めるようにし、またカンファレンスでも時間を設け、職員の意識を高め、日々の仕事にやりがいを持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員個々の能力を把握し、内部研修だけではなく、外部研修に参加する機会を設けたり、スキルアップのためにも資格取得を目指す職員を支援するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、日頃から、同業者との交流を図り、互いのホームを訪問、研修をすることで、サービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接から、入居後も、本人のニーズを把握する機会を作り、対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接から、入居後も、ご家族とも、面会時やその都度、コミュニケーションを図り、対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族の一番のニーズを把握し、支援できるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬う気持ちを常に忘れず、入居者の立場にたち、本人の意思を尊重し、ともに暮らせるような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や行事などでコミュニケーションを図り、ご家族の意見や要望を聞き、日常生活において共に本人を支えていけるような関係を築いている。便りを送るようになり、入居前にご本人の趣味だったビデオを持ってきて下さったり、外出へ連れて行く機会が多くなったりしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活を大切にしながら、生活できるように支援している。	馴染みの家具や品物、家族や友人の写真を居室に飾る等、関係が途切れないよう支援している。また、家族や友人が気軽に訪問し居心地良く過ごせるよう心掛け支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブルもあるが、職員が間に入り、関係がこじれたり、孤立したりしないようにし、過ごせるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、他サービスの紹介、介護やその他の相談など、必要に応じ、対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の生活歴から、本人の希望を把握し、日々の生活の中でのコミュニケーションを多く図るようにし、その人らしさを尊重したケアを提供している。	入居時はもとより日々コミュニケーションを密に取りながら、本人の意向・希望の把握に努めている。家族の訪問時には積極的に声を掛け、入居前の生活や趣味・好みを聞くように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、その後のアセスメント、家族からの話などから、個人のそれまでの暮らしを把握する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察や記録などを通し、一人ひとりの状況を把握し、職員間で共有し、ケアを行う。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員が入居者の状況、問題点を一人一人まとめ、毎月のカンファレンスで検討したものをご家族へ毎月の便りと共に送るようにした事で、更なるご家族の意見や要望を反映したケアプランを作成している。	毎月入居者の状況と問題点を一人ひとりまとめカンファレンスで検討し、現状に即した介護計画を作成している。家族や職員の意見やアイデアを反映した計画を共有しケアに活かしている。	24時間一人ひとりを見守り、その時々様子を「個人記録」に記入している。携わった職員がその時の状況・事実に基づき細かく記入することで、一人ひとりの変化や気持ちを職員が共有しケアに活かしている。また、定期的に家族に伝えることで信頼関係が一層深まっている。素晴らしい取り組みであり、継続を望む。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事量、水分量、排泄パターンなどの行動の把握や、時間ごとの細かな記録を行い、ケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の希望に応じながら、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	それぞれの地域資源を活用しながら、暮らしていけるよう、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望されるかかりつけ医があれば、連携を図るようにし、また、定期的な往診等で、適切な医療を受けられるように支援している。	本人・家族の希望を大切に、かかりつけ医と連携し適切な医療が受けられるよう支援している。職員が同行してかかりつけ医の診察を受診する支援もしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護師が、情報を共有しあい、必要な時に、すぐ受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院との連携を密に図り、出来る限り、早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に希望があればターミナルケアを行っている事を説明し、状態に応じて、ご家族と相談し、本人の意思を尊重したケアが提供できるように取り組んでいる。	希望がある入居者および家族とは入居時から話し合いを行い、事業所で出来ることを説明し、家族と方針を共有し、チームでの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会などを通して、訓練を重ねている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内での避難訓練などを実施している。また、地域の方にも訓練に参加して頂いたり、運営推進会議で災害時の対応についても話し合い、協力体制を築いている。	消防署の協力を得て、ホーム内で定期的に避難訓練を実施している。また、地域の住民が災害時には駆けつけてくれる関係を築き、訓練も一緒に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた対応し、その人らしさを、尊厳を大切にしている。	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症が進んでも、出来る限り、その人の意思を尊重し、過ごせるように、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務でなく、入居者の方を最優先にし、それぞれのペースで生活していただくよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望や好みを把握し、その人らしさを大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みなどに合わせ、その人らしさを大切に、支援している。	調理専門の職員を置くことで介護職員にはゆとりが生まれ、入居者には一人ひとりの好みに合わせたその人らしさを大切にした食事を提供し、楽しむことができる支援をしている。広い庭の畑から収穫した食材は入居者の喜びとなっている。	食事の大切さを認識して、まず眼で楽しみ、品数・柔らかさ・食べやすさ、等々を考えた支援をしている。細心の注意と最大の努力が入居者の安心と安定に繋がっている。更なる努力と継続に期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量、水分量を把握し、きちんと摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに応じた、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の排泄パターンなどをきちんと把握し、それぞれに合った排泄方法を支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けや付き添うことで自立に向けた支援をしている。24時間見守る「個人記録」は一人ひとりの生活の流れを職員が把握でき、きめこまかな支援に結びついている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩だけでなく、飲食物に気をつけると共に、体操などで体を動かすようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、曜日を決めているが、本人の希望に合わせ、その都度対応している。ひとりずつ毎回浴槽の掃除、湯の入れ替えをし、好みの入浴剤を使用したりと、気持ちよく入浴できるようにしている	入浴は一人毎に浴槽の清掃を行い、新しい湯に入れ替えて対応している。順番が変わっても入居者は常に一番風呂で、清潔な入浴を楽しんでいる。	一人毎の浴槽の清掃と湯の入れ替えは、職員の労力・経費の負担が大きいと思えるが、感染症の予防などのプラス面も大きく、特筆すべき取り組みである。今後も継続を望む。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し、その日の状況も考慮し、気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カンファレンスや勉強会、資料などで、それぞれの薬や病気などを理解し、服薬の支援等に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味などを活かした役割を持っていただき、生活に張り合いをもって過ごしていただけるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望を聞き、スーパーへ買い物に行ったり、庭でバーベキューを行い、重度の方でも外出気分を味わえるような機会を設けている。	外出が困難になった入居者には、職員のアイデアと工夫で広いベランダと庭を利用して地域の方や子供たちを招き納涼大会を行う等外出や外食気分を味わえる機会を設けている。	入居者も子供たちが沢山参加した納涼大会をととても喜んで話していた。こうした工夫と努力が入居者の安定と家族からの信頼に結びつくと思われる。年々重度化する入居者に対し更なる工夫と努力を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には職員が管理しているが、買い物に行き、好きな物を買って頂いたり、お金を使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望がある時には、その都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの場所が、入居者の方にとって、居心地の良い場所となるように、工夫している。	入居者が落ち着いて過ごしている食堂や居間からは広い庭や周囲の木々が見え居ながらにして季節感を味わえる。また、広いベランダに出るだけで散歩をしているような気分になれる。音、光、色、温度にも配慮している。また、浴室・トイレ等の不快感を排除する工夫をし、居心地良く過ごせる配慮もしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルで、一人で過ごしたり、仲間同士で過ごしたりできるような環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、今まで使っていたものを持ち込んでもらい、これまでと同じような環境にちかづけるようにしている。	居室には使い慣れた用度品が持ち込まれ、家族の写真や自作の書画を飾るなど、これまでの住環境の継続と本人が居心地よく安心して過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能や残存機能を活かし、出来る限り自立した生活が送れるように工夫している。		